

各支援校の特色ある取組への期待

秋田県教育庁義務教育課 学力向上推進班

研究初年度に当たり、各市村教育委員会及び各支援校には、児童生徒の実態や各学校・地域の特色等を踏まえ、それぞれに工夫を凝らした取組を展開していただきました。今年度の研究における成果と課題を土台として、次年度の研究を一層充実させていただきたいと思っております。次は、義務教育課として、各支援校に期待したい取組についてまとめたものです。

大館市立 城南小学校	学習者用デジタル教科書の効果的な活用について、豊富な実践を蓄積・共有していることは、今後の研究に大きく資する取組です。令和4年度は、授業研究の目玉である「シンカタイム」に、ICTのどの機能を取り入れることで、児童の学びの質がどのように向上したのかを、具体的なデータにより多角的に検証し、ICT活用時代における「シンカタイム」のブラッシュアップが図られていくことに期待したいと思っております。
男鹿市立 船川第一小学校	算数において、見通しをもたせる場面でのICTの活用は問題を自分事として捉えることにつながることや、苦手意識をもつ児童にとってはデジタルよりも具体物のほうが分かりやすい場合が多いことなどは、日常的な取組から見いだされた本研究の成果だと思っております。算数以外の教科においても、主体的・対話的で深い学びの実現に向けてICTを活用するという授業改善の本質を大切に研究が推進されることを期待しています。
湯沢市立 湯沢西小学校	令和3年度は、ICT教育の推進体制を構築し、多様なソフトウェアを利活用しながら実践を積み上げることで、ICTが誰でも気軽に使える身近なツール（文房具）となってきています。令和4年度は、このツールを活用しながら、各教科等の特質に応じて、どのような場面でどのように意図的な働きかけをすることが、児童一人一人の主体的な学びにつながるかについて研究を推進されることを期待したいと思っております。
能代市立 能代第一中学校	タブレット活用予定表を作成して相互に授業を見合ったり、「秋田の探究型授業」と「ICT活用」の2チームに分かれて指導案検討会や授業研究会を行ったりするなど、学校全体でICT活用を推進する取組が工夫されています。令和4年度は、「学び合い」の段階でICTを「どう使う」について研究を進め、協働的な学びがどのように深まったのかを検証し、ICT活用のよさや可能性について発信していくことに期待しています。
大潟村立 大潟中学校	端末持ち帰りに関わる多様な実践を蓄積しており、中でも、学習支援ソフトの活用により学校の授業と家庭学習をつないで学力向上を目指す取組は、県内における最も先進的な実践として注目しています。来年度は授業公開がありますが、それ以外の機会にも他市町村の学校と交流を図るなどして、ICTを活用した教育の一層の充実を目指すとともに、実践や得られた知見等についての積極的な情報発信にも期待したいと思っております。
横手市立 横手南中学校	前年度までの研究を通して、思考ツールの活用や話し合い活動の進め方等、言語活動充実の手立てが蓄積されてきました。その成果にICT活用を掛け合わせることで、探究型授業におけるICTの有効な活用方法が見いだされつつあります。生徒数500名を超える大規模校における全校生徒のICT活用スキルの向上や、職員の研修体制等、今後も研究モデルとして全国の学校の参考となる発信を続けていただきたいと思います。